

研究テーマ

「つながる力」を育む外国語の授業づくり～互いに関わりながら、学んだことを活用しようとする児童の育成～

具体的取組の内容

- ◆関わり合う場面設定の工夫
 - ・単元導入時にゴールイメージを児童と共有する。
 - ・全学年1授業で1回以上、ペアまたはグループでのコミュニケーション活動を取り入れる。
 - ・高学年では、各単元の最終活動に目的・場面・状況等を明確にし、互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を取り入れる。
- ◆学んだことが活用できる場の設定の工夫
 - ・高学年では、その単元で学んだ表現のみでなく既習表現をそれぞれが必要な場面で取り入れていくように促す。
 - ・Small Talk, Activity等の中で、既習表現を意図的に組み込み定着をめざす。
 - ・児童が興味関心を持って取り組めるよう、自分のことや身の回りの人や物など、身近な題材を取り入れる。
 - ・活動と活動の間の中間評価を大切にし、表現力を高めていく。

成果①

外国語の授業に関するアンケート

- ◆外国語の授業が好き、楽しいと感じる児童の割合 84.4%
- ◆習ったことを活用しようとしている児童の割合 85.4%
- ◆英語を使ってできることが増えたと感じている児童の割合 96.9%

成果②

- ◆どの学年においても、授業の中でやり取りする時間を多く持つことで、英語で会話をすることに慣れコミュニケーションを楽しむ児童の姿が見られた。
- ◆高学年のSmall Talkでは、既習表現を児童から引き出し共有することで、いろいろな表現を使おうとする児童が増えた。
- ◆中間評価で児童の良い表現やコミュニケーションを取り上げ紹介したり、ポイントを伝えたりすることで、児童の力を高めていくことができた。

今後の課題・方向性

- ◆児童にとって身近な題材、必然性のある場面設定、児童を引きつける教材の工夫が必要である。教師の後についてのリピートではなく、自分の考えや気持ちをやり取りするための言語活動を設定する。
- ◆Small Talkの充実を図る。帯活動として継続して取り組み、学んだことを繰り返し活用できる場面を設定する。やり取りする中で表現について思考する場面や伝えようとする姿を大切にし、コミュニケーション能力の向上を図る。
- ◆中学校への接続や学びの連続性を意識した指導を行う。